

アジアの中で共生を考える

中国が近い将来にGDPで米国を凌ぐであろうと見られており、人口ではインドがその中国を上回って世界一となりました。国際政治の舞台においても、G7の主導する体制に是々非々で臨むグローバル・サウスの一員として、アジア諸国が存在感を増しています。

本連続講座では日本近隣の東～南アジアにスポットを当て、5人の専門家に紐解いていただきます。国家としても一国民としても私たちが手を携えて生きていくべきアジアについて、マクロからミクロにわたる知見を得て、あらためて「共生」を考えてみませんか。

No	日 時間	前半 9:20～10:50	休憩 10分	後半 11:00～12:30
1	7/23 (火)	米中冷戦が引き起こすアジアの変化 ～産業構造の視点から～ 後藤 康浩(亜細亜大学教授、元日本経済新聞論説委員)		
2	7/24 (水)	アジアの発展と日本の立ち位置 ～平和と繁栄の途～ 中尾 武彦(前アジア開発銀行総裁、元財務官、みずほリサーチ&テクノロジーズ理事長)		
3	7/26 (金)	日本の中の“異国” ～在日外国人の知られざる日常～ 室橋 裕和(ジャーナリスト)		
4	7/30 (火)	日本人が知らないインド ～根底にある思考と教育から考える～ 山田 真美(インド工科大学ハイデラバード校教養学部客員准教授)		
5	8/1 (木)	激変する中国社会と『シン・中国人』 斎藤 淳子(ライター)		

◆ 対 象 : 18歳以上 ※申込が定員を超えた場合は、抽選により受講者を決定します。

◆ 定 員 : 各60名 ※抽選の際は、区内在住者を優先します。

◆ 受 講 料 : 各2,000円(複数受講可)

※受講料は別途お送りする納入通知書により、お近くの金融機関でお支払いください。

◆ 申込期間 : 6月1日(土)～15日(土)

◆ 申込方法 : せたがやコール(午前8時～午後9時まで年中無休)

市民大学HP



電話番号03-5432-3333 ファクシミリ03-5432-3100

【FAXでのお申込みの場合】

①イベント名、②受講希望講座番号(1～5)、③氏名(フリガナ)、④電話番号、⑤住所、⑥生年月、⑦在勤者・在学者は名称と電話番号をご明記ください。

◆ 会 場 : せたがや がやがや館 4階 多目的室(世田谷区池尻2-3-11)

各講義の概要

1: 米中冷戦が引き起こすアジアの変化 ～産業構造の視点から～

後藤 康浩（亜細亜大学教授、元日本経済新聞論説委員）

1950年代後半の日本に始まり、アジアNIES、ASEAN、中国と連鎖的に”奇跡の成長”が起きたアジア。1990年代末から圧倒的な生産力を構築し、「世界の工場」となった中国は自信を深め、米国との覇権争いに向かったことで状況は一変した。主要国は経済面での「脱中国」を進め、ASEAN、インドに好機が訪れたが、各国の政治混乱、新冷戦構造はアジア全体に歪みをもたらした。アジアの今後を産業の視点から考える。

2: アジアの発展と日本の立ち位置 ～平和と繁栄の途～

中尾 武彦（前アジア開発銀行総裁、元財務官、みずほリサーチ&テクノロジーズ 理事長）

アジア経済はこの50年間で大きく発展し、世界での存在感を高めています。同時に、世界、そしてアジアの地政学的な環境は厳しくなっており、平和を維持し、さらなる繁栄を図るための知恵が求められています。この講義では、現在の国際社会の諸課題を概観したうえで、アジアはなぜ発展したのか、中国の政治と経済の状況はどうなっているのか、日本経済はどうすれば再活性化できるのか、日本のアジアでの立ち位置はどこにあるのかを学びます。

3: 日本の中の“異国” ～在日外国人の知られざる日常～

室橋 裕和（ジャーナリスト）

日本に住む外国人は340万人を超え、過去最多を更新しました。しかし外国人についての報道は、危険な犯罪者と扱うか、あるいは搾取される労働者と憐れむかの両極端なものばかりで、なかなか彼らの生の姿が見えてきません。そこで本講義では私の住む「日本最大の多民族タウン」新大久保や、外国人が働き手として地域を支える北関東など、各地で取材した「外国人コミュニティ＝日本の中の異国」と、そこで暮らす外国人のリアルをお伝えします。新たな隣人はどんな考えでこの国に生きているのか、皆さんと考えてみたいと思います。

4: 日本人が知らないインド ～根底にある思考と教育から考える～

山田真美（インド工科大学ハイデラバード校教養学部客員准教授）

2023年、インドの人口はついに中国を抜いて世界第一位に躍進しました。昨今はIT業界を中心に世界の大企業トップ人事にも数多く起用されているインドの精鋭たち。日本でも米菓売り上げNo.1の亀田製菓がインド人CEOを選出して話題になりました。この講座では、前半で「インド人のものの考え方」、後半では「インド教育の秘密」を通じ、日本人が知らないインドの強さの秘密に迫ります。キーワードは「ノープロブレム」と「インド工科大学」。

5: 激変する中国社会と『シン・中国人』

斎藤 淳子（ライター）

日本の古来の隣人として、また世界の2極として理解が不可欠な国、中国。しかし、我々の想像を絶するスピードで激変を遂げる一方、近年は同国の内向き志向の強まりもあり、不透明感が増す一方です。そんな中国社会とそこで生きる個人の姿を我々はどれだけ掴むことができるのでしょうか？—北京市民として暮らす在住者の目線から拙著『シン・中国人』（ちくま新書）を基に最新の中国社会について考えます。

【問合せ先】世田谷区 市民大学・生涯大学事務局

Tel 03-3412-3071 Fax 03-3412-3075 (8:30~17:00 土・日・祝日は休み)

参加
無料

第45回 愛宕薬師フォーラム 開催のご案内

令和6年9月9日(月) 14:00~16:30

別院真福寺 地下講堂(東京都港区愛宕1-3-8)

オンライン参加可能

密教とヒンドゥー教

— 聖天・弁才天・吉祥天・大黒天・帝釈天・阿修羅の元の姿とは —

講師：作家/インド工科大学客員准教授 山田 真美 先生

真言密教では曼荼羅に描かれる数多くの仏さまを供養し、信仰しています。インドで誕生した仏教、そして密教に説かれる仏さまは、もちろんインドが発祥となります。特に天部や修羅に属する仏さまは、現在インドの8割の方が信仰されているヒンドゥー教の神々から取り入れられています。



聖天はガネーシャ、弁才天はサラスワティ、吉祥天はラクシュミー、大黒天はシバ、帝釈天はインドラ、阿修羅はアスラと、そ

れぞれヒンドゥー教やインド神話の神々がもとになっています。これら日本の神仏を信仰している方も多いためです。しかし、そのもととなった神々について理解している方は少ないと思います。

今回ご講演いただく山田先生は、インドデリー大学大学院に留学され、インド神話の調査研究に携わり、6年間にわたりインドに在住されていた経験があり、インドの文化に精通されています。さらに、現在、宗祖弘法大師空海についての著書を執筆中という真言密教にも造詣の深い先生です。

耳にはするけれど馴染みが薄いヒンドゥー教やインド神話が、如何にして密教に取り入れられてきたのか、またインドの文化やインドの人々の考え方について知っていただく機会とします。

【山田 真美 先生 略歴】

1960年長野県生まれ。明治学院大学経済学部卒業後、オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ大学およびインドのデリー大学大学院に留学。2009年高野山大学大学院修士課程修了(修士・密教学)。2014年お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了(博士・人文科学)。公益財団法人日印協会理事、インド工科大学ハイデラバード校教養学部客員准教授。著書に『吉祥天と行くインドの旅』(インド政府観光局)、『死との対話』『ロスト・オフィサー』(以上スパイス 出版社)、『運が99%戦略は1% インド人の超発想法』(講談社)、『生きて虜囚の辱めを受けず』(清流出版)など。



- ◆どなたでも無料で受講できますが、定員がございます。先着順ですでお早目にお申込みください。
- ◆本フォーラムは、本宗教師が受講すると六級昇補に必要な単位として認定されます(教化2単位)。
※オンライン参加の場合、単位認定はされません。
- ◆ご参加の際は、下記連絡先までお申し込みください。オンライン参加希望の方は必ず下記メールアドレスからお申込みください。

【お問い合わせ・お申し込み】

真言宗智山派 智山教化センター TEL 03-3431-5218 FAX 03-3431-5219
E-mail : kyoukac@chisan-ha.org